

ワークショップ「多職種連携教育(Interprofessional Education = IPE)を経験してみよう」

シナリオを利用してグループワークによる多職種連携の問題点とその解決策を探る
使用シナリオ：「医薬看クロスオーバー演習 ―チーム医療の現状と問題点、そして
その未来―(京都廣川書店)」

オーガナイザー：網岡 克雄(金城学院大学薬学 教授)
ファシリテーター：阿部 恵子(愛知医科大学 看護学部 教授)
後藤 克幸(CBCテレビ 論説室 解説委員)
安井 浩樹(美幌町立 国民健康保険病院 呼吸器内科 医師)

チーム医療(多職種連携の医療)とは、「チーム医療の推進に関する検討会 報告書(厚生労働省)」の中で「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」と定義しており、チーム医療がもたらす具体的な効果として、①疾病の早期発見・回復促進・重症化予防など医療・生活の質の向上、②医療の効率性の向上による医療従事者の負担の軽減、③医療の標準化・組織化を通じた医療安全の向上、等が期待されている。

今後、チーム医療を推進するためには、①各医療スタッフの専門性の向上、②各医療スタッフの役割の拡大、③医療スタッフ間の連携・補完の推進、といった方向を基本として、関係者がそれぞれの立場で様々な取組を進め、これを全国に普及させていく必要があると報告している

報告にもあるように、医療においてチーム医療は不可欠なものとなっているが、一人一人のスキルを向上させる方法としては現場での経験が中心となっているのが現状である。

多職種連携のためには、チームにおける機能を理解すること、職種間で相互的に発生するリーダーシップ、各職種の役割の見える化と理解、職種間で起こるコンフリクトの解決方法など、専門職としての専門性のスキル以外に、基本的なコミュニケーション能力と、個人の性格個性をお互いに理解して相手に有効に対応する能力、さらにカンファレンスなどを統括する能力や連携のリーダーシップをとる能力も必要とされており、現場での体験実習は大変重要な教育ではあるが、それだけでは多くの医療人に基本的教育を行うことは大変難しいと考えられる。

このような医療人教育分野での多職種連携教育(Interprofessional Education = IPE)はWHOでも推奨されるなどしており国際的にも注目をされている教育方法であるとされている。しかし、他職種が一堂に会してのワークショップやディスカッションを開催することが大変難しいというのが現状である。

本ワークショップではチーム医療(多職種連携の医療)による、在宅医療、終末期医療、高齢者医療等をテーマに議論することを目的として企画されたシナリオを利用して、多職種が集まることが出来ない状況においても、様々な職種の目線からカルテや処方箋等のリソースを見比べ、在宅医療のシナリオを通じて、医療現場を疑似体験してもらうことを目的としている。

医療者が悩みながら、患者とその家族と関わっていく様子を記すシナリオ(看取り・認知症)を利用し、医療とは如何にあるべきか、コンフリクトの解決やリーダーシップについてグループワークを行い、チーム医療への医療スタッフとしての関わり方や患者はもとより家族の思いを理解するスキルを身につける機会にして頂きたい。